

鹿児島県伊佐市は、鹿児島県北部に位置する市である。「東洋のナイアガラ」といわれる壮大な滝がある。伊佐米や世界でも有数の高品位を誇る金の鉱山も所在する。芋焼酎伊佐美は人気がある。北側は熊本県、東側は宮崎県と接し、川内川が市を

大震災で秋に延期になった。平和首長会議に加入したことを記念した隈元新市長の肝いりであった。偶然に訪ねた市長室での口約束であった。

食事に呼ばれてお宅にもおじやました。庭には立派な庭石が重なるように置いてあり、目を奪われた。やはり、晩年は妻の里で暮らすのが理想なのか。しかし、この日のためにわざわざ松浦からスポかまぼこを取り寄せるとは、いかにも尾崎さん

男の顔は履歴書だ

の紹介で演劇を通じて知り合った。本業は林建設という建設業らしい。しかし、林さんは建設業の人らしい顔ではなかった。どちらかというところ、わたしの世界にいる映画監督や俳優の顔であった。人は職業で顔が違ってくるのかもしれない。

横断する。1月の平均気温は4・4度で盆地の京都市よりも寒い。2016年1月25日には九州の最低気温となる氷点下15・2度を記録した。

会」でよく会っていた。松浦市御厨町の人である。伊佐市は奥様の里だそうである。その夜の宴席には尾崎さんが大量の松浦のスポかまぼこを持ち込んだ。

らしい。伊佐市ではいろいろな世話をやっていて、すっかり伊佐の顔役であった。

朝夕、海で朝日と夕日を拝み、潮騒を浴びる漁師は赤銅色の漁師の顔になる。田を耕し、秋の収穫を待つ農家の人は粘り強いほほ笑みのある顔になる。撮影所を歩いていると、スタッフかキャストかはすぐにわかる。作家、劇作家、新聞記者、政治家、男の顔は履歴書なのである。

その伊佐市で「長崎の鐘」の公演をしたことがある。6年前である。春の公演予定が東日本

ずつポケットに入れて持ち帰っていた。

までになったのか。その筋道を付けてくれたのが林隆秀さんである。林さんとは、ある人

（松浦市出身）

建築業の射手園武也さんの娘、由ちゃんも、すっかり大人になってしまった。近頃は、恥ずかしがって知覧の我が家にも訪ねて来なくなった。鹿児島市まで、よく遊びに行っているらしい。そうだった、家内の娘時代にも鹿児島市まで映画を見に行ったと言っていた。日活映画らしい。あの時代は裕次郎と旭、赤木圭一郎が総天然色カラー、シネマスコープで日本中を席卷していた。